

ドイツ国際平和村代表、ケビン・ダールブルフとの対談内容

1. 募金箱設置の全国展開を考えていますが、当団体が勝手に自由に発言することはよくないと思います。平和村から望むアピールは、ありますか？

ゆっくりと確実に。そして、「持続性」を意識した活動だとありがたいです。また、展開していくにあたり、それぞれの都道府県の担当者との信頼関係を築き、大切にしながら、進めていってください。「設置店、各都道府県の担当者、ペイ・フォワード俱楽部、ドイツ国際平和村、子どもたち」の全てが信頼でつながっているので、一つの不信感が大きく広がりかねないです。信頼の基盤を壊すことなく、お互いができる事を少しずつ進めていきましょう。

2. 子供たちの状況の変化、平和村の対応の変化など、初期から変わってきてることが多いと思います。具体的な変化を3個挙げてください。

子どもたちの治療を無償で行ってくれる病院が減少しています。ドイツへ連れてきたい子どもたちはまだ母国にはいるといった状況ですが、無償治療受け入れ減少のため、連れてくる子どもの数を減らさなければならない状況があります。（2019年11月のアンゴラ援助飛行では25人しかドイツへ受けることができませんでした）このように、医療業界の変化に伴い、子どもたちに治療援助を提供する活動は、年々厳しくなっています。このような状況を開拓するために、ドイツ国際平和村は、平和村施設内に手術室を備えたメディカル・リハビリセンターを建設することにし、2019年に建設を開始しました。ドイツ国際平和村は、この建物の建設により、長期的な視野で新たな枠組みのもと協力病院と連携が取れることを願っています。この手術室では、手術室内の設備で可能な外科・整形外科手術を行います。それにより協力病院の費用負担を減らすことができます。

子どもたちのビザ取得の困難さも変化として挙げられます。手続きにかかる書類の数も増えています。そのことによる子どもたちの家族の負担もあります。この状況をドイツ国際平和村が具体的に直接的に変更することはできないですが、ドイツ外務省の方々と直接話をして、ドイツ国際平和村の活動を知ってもらい、これ以上手続きが困難にならないようにお願いしたりしています。

活動を進めていく上で、社会の変化を敏感に感じ取って対応しなければなりません。（対談の数日前）アメリカのトランプ政権は、前のオバマ政権が朝鮮半島以外では使わないと表明した対人地雷について、使用方針を撤回すると発表しました。約15年前に学生の支援プロジェクトの一環で作成されたドイツ国際平和村のポスターの一つに「地雷で傷ついたクマ」のバージョンがあります。ドイツ国際平和村の活動を通して、紛争や武器といった暴力によって傷つく子どもたちのことを伝えてきてはいますが、それに逆行した考えが国際社会で話題になっています。平和教育活動にも力を入れているドイツ国際平和村として、人々が関心を持ち続けられるよう、声明文やアピール文をHP等で流して、人々に喚起していくことを意識しています。

3. 日本国も災害被害がここ数年多くなっています。国内支援として、災害で両親を亡くし障害を持った子供も沢山います。そんな子供たちに、メッセージをお願いします。

(まずは、国内支援に関する説明が純子さんより。災害被害の影響を受けた子どもたちに向けて、ゆうさんがチャリティーギターコンサートをしている。ペイ・フォワード俱楽部は認定団体なので、助成金の申請ができる。そういうコンサートで、ドイツ国際平和村の活動の紹介もしたい。日本は島国なので、世界の他の地域のことを知る機会が少ない。世界の子どもたちの状況を知ることにより、日本人々がポジティブに将来をとらえられるようになるかもしれません。)

世界中の子どもたちのことに目を向ける人々が増えることは好ましいことです。ドイツ国際平和村の子どもたちにとっても、災害で影響を受けた子どもたちが応援してくれると知ることによる良い作用があるかもしれません。そこには、「互いを思いやる」という心があり、大切だとあらためて思います。ただ、国内支援のチャリティコンサートで、ドイツ国際平和村を出しすぎて、逆効果にならないことを願います。意図を理解できず、誤解を生むことにならなければよいなと思います。

日本で、または世界各地で起こる災害の被害、被害者を思うと、本当に心が痛みます。しかし、私たちは日本人々が互いに協力し合い、乗り越えていくことも知っています。ドイツ国際平和村と長く協力関係にある日本人々から、他人を思いやり、手を差し伸べ、連帯を表明することを私たちは学んでいます。私たちは、日本の子どもたちそして世界中の子どもたちが、子どもらしく生きる権利行使できること、紛争や貧困、不公正を経験しなくてもすむことを、心より願っています。